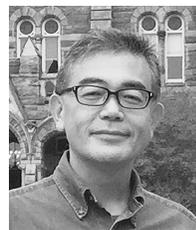


「英文法」とは何か



江藤裕之

英国で規範文法（学校文法）を大成したとされるマレー（Lindley Murray, 1745-1826）は、英文法を the art of speaking and writing the English language with propriety（英語を正しく話し、書く技術）と定義している。これはマレーのオリジナルではなく、それまで2世紀近くにわたって出されてきたさまざまな英文典に共通する定義を踏襲している。その淵源は、中世でもっとも人気のあったリリー（William Lily, ca. 1468-1522）のラテン文法にある文法の定義、すなわち grammatica est recte scribendi atque loquendi ars（文法とは正しく書き、話す技術）であろう。

この英文法の定義を見ると少しおかしなことに気づかないだろうか。それは、文法を「書く」ことと「話す」こと、つまり、言語の表出面のみに限定していることだ。英語を外国語として学ぶ私たちにとって、英文法とはとりもなおさず、英語を正しく理解するため、つまり、英文を正確に「読む」ために必要な技術ではないだろうか。それは文を構成する要素としての品詞の意味や用法について、そして、文の構造についての知識であったりする。では、なぜ規範文法では文法を書く、話すための技術としたのだろうか。

今日でも、文章を正しく書き、話すには高度の知的能力が必要であり、訓練が求められる。まして、識字率の低かった時においてはなおのことである。そういう時代に曲がりなりにも文章が書けるということは、そうでない人々から抜きでる技（art）を身につけたということであり、それだけで立身出世が約束されていた。まさしく officer や white collar になることができた。文法を学ぶことがきわめて実用的な利益をもたらした時代があったのである。

私たちが母語で表現する時にも言えることだが、上

手な文章を書いたり、人前でまともな話をするには訓練が必要である。それは、単に通じればよいといったものではなく、それなりの作法を習得しなくてはならない。マレーの文法の定義にあるように with propriety、つまり、作法通りに、襟を正して言いたいことを言葉で表現するという姿勢が求められる。

そのためには、基本的な「形（型）」を学ばなければならない。それは、手本となる良い文章を読み、それをまねながら、自分自身で文章を書く訓練をすることである。学ぶとはまねることだという。ある落語家の言葉だったと記憶するが、しっかりと形（型）を習得したうえでそれを超えていけば、それは「型破り」となる。しかし、形（型）を身につけないで我流でやるのは「形無し」であると。そして、この形（型）は有限であり、習得可能である。有限のものを理解し、使えるようになることで、そこから無限の可能性が広がっていく。

英語の文法のルールも有限である。語法は無限であるが、文法のルールには限りがある。英文法のエッセンスを学んで英語の基本を身につけ、あとは語彙を増やし、さまざまな表現を自分のものにしていけば、英語は必ずできるようになる。今日、文法はもはや立身出世のための道具とはみなされないだろうが、英語で正しい文章を書き、きちんとしたスピーチをすることができる能力は貴重である。

基本となる英語の形（型）を身につけること。ここに学校で英語を学ぶ意味があるのではないだろうか。その基本は文法である。英文法なんか無駄だと言っている人でも、文法的に英語を話している。文法はきわめて実用的なものであるという自信をもって教えた

（えとう ひろゆき・東北大学教授）

英語教育改革のグランドデザインと 次期学習指導要領改訂を見据えた改善方策

向後秀明



◆中・高生の英語力の現状

日本の子供たちの英語力は、現在どの程度あるのだろうか。文部科学省は国として初めて、平成26年度に高校3年生約7万人、27年度に中学3年生約6万人及び高校3年生約9万人に対して4技能型（リスニング、リーディング及びライティングは全員、スピーキングについては1校あたり1クラスを対象）の英語力調査を実施した。本調査の特徴の1つは、調査結果を世界的な指標として認知されているCEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のレベルに紐づけたことである。平成27年度調査は、次のような結果であった。

【中学3年生の英語力】（平成27年度）

※国の目標：英検3級程度等（CEFR A1レベル 上位相当）50%

上記目標の達成割合	主な特徴
聞くこと：20.2%	4技能全てに課題。「書くこと」は無解答者が12.6%で、全体に大きなばらつき。
読むこと：26.1%	
話すこと：32.6%	
書くこと：43.2%	

【高校3年生の英語力】（平成27年度）

※国の目標：英検準2級～2級程度等（CEFR A2レベル）50%

上記目標の達成割合 ※（ ）はH26結果	H26との比較
聞くこと：26.4% (21.6%)	H26と同様、4技能全てに課題。ただし、A1レベルの人数が減少（例：「読むこと」75.3%→68.0%）。
読むこと：32.0% (24.7%)	
話すこと：11.0% (10.5%)	
書くこと：17.9% (10.9%)	

上記のように、中・高いずれも4技能全てにおいて課題があり、第2期教育振興基本計画で示された目標（政府が閣議決定した平成29年度末までの指標）には遠く及ばないことがわかる。

◆しかし、目指すは“アジアの中でトップクラス”

2013年12月に文部科学大臣が「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を発表し、その具体化に向けて、2014年2～9月に「英語教育の在り方に関する有識者会議」が計9回にわたって開催された。その結果を取りまとめた「今後の英語教育の改善・充実方策について 報告～グローバル化に対応した英語教育改革の5つの提言」では、「アジアの中でトップクラスの英語力を目指すべき」とであると明記された。このことについて、驚かれた方も多かったことと思う。先述の中・高生の英語力の現状からすれば、確かに厳しい。しかし、私個人としては、“Let’s NOT use the word ‘impossible.’ It is time we get together and think about how we can make the profound change happen.” という思いである。アジア各国では、英語教育改革が進んでいる。他国にはできても日本はできない、と言っている余裕はもうない。実際、「5つの提言」が公表された直後から各提言に沿った施策が立案され、国ではそれぞれに予算をつけて、既にかかなりの部分が実行段階に入っている。

◆では、次期学習指導要領改訂の方向性は？

現在、中央教育審議会外国語ワーキンググループ

ブを中心に、次期学習指導要領の改訂に向けた動きが始まっている。全てについて審議中であり決定事項ではないが、大きな方向性として、これまで次のようなことが示されている。

高等学校
<p>○授業は英語で行うことを基本とするとともに、4技能を総合的に扱う言語活動、特に、課題がある「話すこと」と「書くこと」において発信力を強化する言語活動を充実する。</p> <p>○幅広い話題について、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝え合ったりする能力、他者を尊重しながら発表、討論・議論、交渉等ができるコミュニケーション能力を養う。</p>
<p><科目再編> (科目名はいずれも仮称)</p> <p>外国語：「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」，「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」</p> <p>英語（専門）：「総合英語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」，「ディベート&ディスカッションⅠ・Ⅱ」，「エッセイ・ライティングⅠ・Ⅱ」</p>



中学校（年間140単位時間）
<p>○互いの考えや気持ちなどを英語で伝え合う対話的な言語活動を重視した授業を英語で行うことを基本とする。</p> <p>○他者を尊重し、具体的で身近な話題について理解・表現したりする能力、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。</p>



小学校
<p>(高学年：教科型，年間70単位時間*)</p> <p>○相手意識をもって聞いたり話したりすることに加え、読んだり書いたりすることについての態度の育成も含めたコミュニケーション能力の基礎を養う。</p> <p>(中学年：活動型，年間35単位時間*)</p> <p>○相手意識をもって聞いたり話したりすることを中心にしたコミュニケーション能力の素地を養う。</p>

※小学校の時数については、今後、教育課程全体の構成とともにさらに検討。

◆改革の実現に向けて取り組むべきこと

次期学習指導要領を含め今後の方向性が示されつつある中、その実現に向けて取り組むべき課題は山積している。現在、国や自治体等では、次の事項を含め、急ピッチで改革に着手している。

□国の教育目標と各学校における学習到達目標

☞ 国は、「英語を用いて何ができるようになるか」という観点から、技能ごとに小・中・高で一貫した教育目標を設定。これに基づき、各学校では、具体的にCAN-DOリストの形で学習到達目標を設定し、指導・評価において活用。

□学校における授業指導と学習評価

☞ 聞いたり読んだりしたことを活用して話したり書いたりする統合的な言語活動などを通じ、4技能の総合的なコミュニケーション能力を育成。同時に、パフォーマンス評価等を含む多様な評価方法によって、各技能を適切に評価。

□大学入学者選抜

☞ 大学入学者選抜において、4技能のコミュニケーション能力を適切に評価。その際、4技能型の外部資格・検定試験の活用を促進（現在、中央教育審議会高大接続部会において、大学入学者選抜の改善の具体について審議中）。

□教員養成・採用・研修

☞ 大学における新たな教員養成カリキュラムの開発、英語力・指導力のある教員の採用、現職教員研修のさらなる充実。

*

今回の一連の動きは、スピードが速い。また、官民間わず、国全体が英語教育改革に向けて様々なサポートを行っている。“英語だけはダメな日本”というレッテルを本気で剥がす時である。同時に、学校教育だけで英語が習得できるわけではない。卒業後も英語と付き合い、生涯にわたって英語を学び続けていく“independent learner”を育てていくことが大きなカギとなるであろう。

(こうご ひであき・文部科学省 教科調査官)

Genius

English Communication

本物の学びを可能にする

Genius English Communication I *Revised*

村野井 仁



『ジーニアス・コミュニケーション英語Ⅰ』（*Genius EC I*）を世に送り出して丸3年が経ちました。編集にあたってとにかく重視したのは、これからの世の中で生きていく若者たちにとって大切なトピックを盛り込むということでした。生徒と先生が意味のある内容について学び、理解し、考えたことを伝え合うための踏み台となるよう、編集チーム一同、工夫を凝らして作りました。

英語教育を単なるスキルの習得としてとらえるのではなく、日々の授業を通して、生徒たちの世界に関する知識を深め、多文化共生に必要な姿勢を育てたいと願う英語教師は日本にたくさんいるはずだから、こういう教科書もきっと受け入れられるはずだと私たちは願っていました。そしてその予感は的中し、*Genius EC I* を好んで使っていた先生方はたくさんいらっしゃいました。

その一方で、使ってみたいけれど英語表現が難しすぎて手がでないという声もちらほら聞こえてきました。題材を本物にするとどうしても難しい語彙が増えてしまいます。なるべく原典をそのまま変えずに生かそうとすると構文が難しくなってしまいます。今回の改訂ではこの点について考え方を变えて、抜本的な改善を加えました。語彙レベルや文構造の複雑さを思いきり下げることによって、題材の質を落とさずに生徒にとってより読みやすい、教師にとってより扱いやすい教科書になりました。

このような改訂を経た *Genius EC I Revised* の概要と背景にあるねらいをご紹介します。

▼共生につながる題材内容

改訂版においても *Genius EC I* で基本方針とした「人類共生にとって大切な題材内容」を扱うことは少しも変わりません。このことをもっとも明確に示しているのが Lesson 1 です。地球にはどんな人々が住んでいて、どんな問題があり、それらにどう立ち向かっていくべきなのか、『世界がもし100人の村だったら』を改編した教材で概観します。それに続く、*Genius EC* シリーズのほとんどのレッスンの内容がこの100人の村につながっていきます。

Lesson 2 ではふるしきという身近な日本文化の歴史を紐解き、すべての文化が人々のこころの表れであることを学びます。

Lesson 3 は、2014年にノーベル平和賞を受賞したマララ・ユサフザイさんを扱う新教材です。高校生と同じ世代のマララさんがどんな考えを持ち、どう行動したのかを本人が書いたブログ記事や国連でのスピーチに触れながら考えます。

Lesson 4 ではボルネオの熱帯雨林破壊を通して、環境を守ることの大切さを学びます。私たちの日常生活と環境破壊が結びついているということに気づききっかけにしてほしいレッスンです。

Lesson 5 は病気に立ち向かったアレックス・スコットさんのお話です。病気や事故、そして災害によって大切な命が脅かされることは私たち人間にとって避けようがないことだと思います。生命の危機に瀕して悲しみ一色になってしまうこともあるでしょう。しかしながら、まだ幼いアレックスさんは自分の命のともしびが消えていこうと

する中で、前を向いて、自分にできることをやり抜き、その思いを多くの人の心に残しました。単なるかわいそうな話ではなく、人がどう生きるかということを考えるレッスンです。

新教材の Lesson 6 では自分の体について理解を深めます。忙しくて十分に睡眠をとれないとき脳の中で何が起きるのか、生物の授業で学ぶような語彙も使いながら学びます。意志力をいかに高めるかという心理学に基づくレッスンです。

Lesson 7 は男女差別を乗り越えて女性の柔道を広めたアメリカ人柔道家の話です。あからさまな差別を受けても柔道をあきらめなかったラスティ・カノコギさんの人生からさまざまなことを考えます。本課に対応した Read On! 7 には、ジャッキー・ロビンソンさんの読み物が新たに加えられました。性差別、人種差別、そして身の回りにはびこるあらゆる差別について、しっかりと考えてみる機会になると思います。

Lesson 8 では水の問題について考えます。豊富にあると考えられる水が実は足りないという事実があること、そして、日常的に食べたり、使ったりしている食品や製品に多くバーチャル・ウォーターが含まれており、私たちは知らずに消費していることを学びます。改訂版では水不足への対策の一つとして北九州市が進めている海水の淡水化についての情報も加えられました。

Lesson 9 はフェア・トレードです。「買い物は政治だ」(p.114) という U2 のボノさんのことばが示す通り、賢く買物をするには、搾取や環境破壊、児童労働などによって苦しんでいる人たちに間接的に支えることとなります。国際的な相互依存関係、つまり、私たちは一人では生きていけないことについて学び、自分たちに何ができるのかを考えます。

Lesson 10 は、多くのユダヤ人の子どもたちをホロコーストから守ったポーランド人、イレーナ・センドラーさんのお話です。自分の命を危険にさらして子どもたちを救ったその行為から、人

の意志の強さ、戦争の愚かさについて考えます。

このようにすべてのレッスンが人間と世界、いのちと共生にしっかりとつながっています。

▼ 4 技能統合型の授業

これらの本物の内容に関して生徒と教師がテキストを理解することによって知識を広げ、そして、その概要や自分の考えを他者に伝える、そのようなインプットからアウトプットにつながる授業が展開しやすいようにさまざまな言語活動が Communication Activities として用意されています。

本文の内容を要約しながら英語で再生するための補助となるコンセプト・マップは、各パートごとに区切った形で提示するようにしました。本文内容に沿ったディスカッションができるように議論のためのポイントも揃えています。Genius EC I の言語活動の中で最も特徴的なのが Project です。「調べ学習」を行ってその成果を発表するというまさに本物の学習 (authentic learning)、そして本物の言語使用の機会になっています。

▼ CLIL 的要素を持った英語授業

このように深い題材内容に関して、生徒たちが聞いたり、読んだり、話したり、そして、書いたりすることによって、知識・技能・姿勢をバランスよく育てることを Genius EC I Revised はめざしています。本物の学習を促す点においてこのような英語授業は、近年注目を集めている CLIL (content and language integrated learning/内容言語統合型学習) の要素を持っていると考えられます。Genius EC I Revised は、生徒を自律した社会的存在 (social agent) として扱い、生徒たちがさまざまな問題に関して自分自身の声 (voice) を上げることができるようになることを願って作られたユニークな英語教科書なのです。(むらのいひとし・東北学院大学教授・文学部長)

Genius

English Communication



Genius English Communication I Revised の活用法

ディベートの枠組みを利用して説明文を整理する 矢野 賢

現勤務校は上位進学校ということで、基本的な英語の知識を持っている生徒が多い。だが、まとまった量の英文を書かせると、まとまりのない文章になってしまうことがある。本稿では、*Genius I* を用いて教科書の英文の内容を理解したあとのポストタスクとしてのプロジェクトを紹介する。

【プロジェクト設定のねらい】

本プロジェクトには、教科書本文にある水不足の問題 (Lesson 8) に対して、解決方法を説明するタスクがある。この説明を書く際に、ディベートの議論の枠組みを利用し、まとめるように計画した。

また、プロジェクトを通じて、読んだ内容を理解するだけでなく、その解決方法を考えることによって、知識を内在化させることを狙いとした。特に、内容、文法、タスクの3つを有機的に組み合わせることに留意した。

▼本文の概要

・Lesson 8 Water Crisis

Part 1 では、様々な要因から途上国のみならず先進工業国においても水不足が問題になっていることなどを、いくつかの具体例を元に紹介しており、世界規模で問題解決に取り組む必要があると述べている。続く Part 2 では、食品を作る際に必要となる virtual water の概念について、牛丼などを例にとり説明している。また、これら食品輸入が途上国に負担をかけていることについても触れている。Part 3 では、食糧自給の観点か

ら日本が水を海外に依存していることについて説明している。最後の Part 4 では、水資源確保のための方策の1つとして、日本の持つ淡水化技術を紹介している。特に今回の改訂版では、原発事故での汚染水問題など、最新の時事問題などに関連した内容に書き換えられており、興味深い。

▼授業の進め方

1) 問題の設定

教科書の内容を振り返るため、本文に書かれている水問題の原因となっている事柄について、ワークシートで提示する。(例: climate change, the rapid increase in the world's population, poor water management, virtual water, contamination など)

2) 解決方法について考える

これらの中から問題を1つ選び、その解決方法について説明する。教科書の Project では、世界の水不足に対して個人的にできることを3つ書き出す設定がある。日本の1人の高校生として現実的にできることは限られるため、「水道の水を流し放しにしない」ことや、「お風呂の水を再利用する」などの内容が出てくることが予想される。そこで本課の文法事項として扱われている仮定法過去を利用し、さらにもう一步踏み込んだ状況設定として、If you were the prime minister of Japan, what would you do? という問いかけを設定した。この設定により、現実的には難しくても様々なアイデアを自由に提示することが可能になった。

3) 議論の枠組みに合わせて説明する

「～について述べなさい」とだけ言われると、どのように説明したらよいのか分からない生徒も多い。また、脈絡なく自分の考えを書き続け、結果として指定された内容とずれていることもある。そのため、今回のプロジェクトで解決のための方策を提示する際に、ディベートなどで用いられる議論の枠組み (Present Situation - Link - Importance) を用いて説明するように指示を与えた。

まず Present Situation として、現状にどのような問題が存在するのかを説明する。生徒は教科書本文などを元に説明することになる。記入欄は3行しかないので、行数に合うように要約することが問われるかもしれない。次に Link である。問題に対してどのような対策 (計画) を立てるのか、首相になったつもりで考える。方法がどのように問題解決につながるのかが分かりやすく説明する必要がある。最後に Importance について述べる。問題を解決することによって、誰がどのくらい利益を得るのかなどについて、説明する。

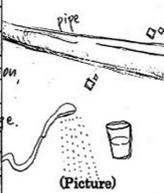
このような枠組みを与えることで、書き手側はどのような手順で説明するのかを明確にすることができる。また、聞き手側も問題が何なのか、様々な解決方法ごとにどのような利点があるのかを比較することが容易になる。

▼作品の発表

今回の Project でできた作品については、グループ内でのプレゼンテーションを行った。6人程度のグループに分かれ、1人ずつ自分のプランを口頭で説明する。「首相ならば」という設定なので、選挙公約さながらである。全員のプレゼンのあと、グループ内で最も良かった作品について投票を行った。また、作品は、事後にポスターにし

①Present Situation 現状の問題	In Japan, a lot of food are imported from developing countries. People in developing countries suffer from hunger. Large forest are disappearing for making fields.	If we can't import food ...
②Link 解決方法の説明	To help solve the problem, I suggest that we limit importation of food. Now, we rely on imports for 60%, but we should rely on it less than 30%. We ought to make food by ourselves.	
③Importance 解決の重要性	If we carry out the plan, many poor people will be helped from hunger, and the environment in developing countries will be protect. We and other people can get a lot of benefits.	We can only eat an apple and one potato. (Picture)

作品例 1

①Present Situation 現状の問題	According to The World Wide Fund for Nature (WWF), the poor water resource management is leading to water shortages. For example, in London, such water leaks from pipes.	
②Link 解決方法の説明	If the prime minister of Japan can help such situation, Japan can fix the pipes by Japanese technology and give tools which save water for people suffer from water shortage.	
③Importance 解決の重要性	If the problem is settled, people all over the world can get more water and countries can improve the efficiency of sending water.	(Picture)

作品例 2

て他のグループの生徒も見られるようにした。

▼生徒の作品から

本プロジェクトを通じて、生徒は水問題を自らの問題と捉えて真剣に議論する様子が見られた。例えば作品例 1 では、本文で提示されていた virtual water の問題は日本の食糧自給率が低いことに起因することに気づき、自ら食料を作ること自国のみならず他国の利益にもなると述べている。また作品例 2 では、水の管理の問題解決には日本の水道技術が役に立つと考え、本文を参考にロンドンの漏水の修復をすべきだと主張した。

このように、生徒は非常に柔らかい切り口で問題解決の方策を考えることができた。生徒がお互いのアイデアを出し合うことで、最後まで興味を持って英語を用いたコミュニケーションを行うことができた。

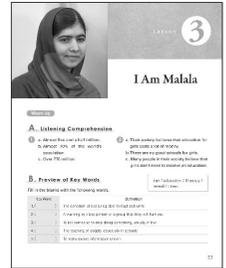
*

Genius English Communication I は非常によく構成された教科書である。しかし、どんなに良い教科書であっても、最後は各教師が目的に応じてアレンジしていくことが大切である。これからも Critical かつ Creative な視点で教材を発展させていきたい。

(やの けん・茨城県立水戸第一高等学校教諭)

Genius English Communication I Revised 改訂のポイント

編集部



Lesson 3

▼生徒に読ませたいメッセージ性のある新教材

現行版 *Genius* では、生徒に世界全体の課題を自分たちの問題として考える視点を与える教材を多く取り上げ、ご採用いただいた先生方からも、「<英語を学ぶこと＝国際意識を身につけること>を自然に意識させる教材がよい」などのお声を頂戴しています。改訂版でもその観点から教材を見直し、2つのレッスンに新教材を採用しました。1つは、Lesson 3 I Am Malalaで、ノーベル平和賞を最年少で受賞したマララ・ユサフザイさんの足跡を、著書やブログ、国連でのスピーチなども交えてたどります。もう1つは、Lesson 6 Willpower and Sleepで、脳科学の見地から意志力と睡眠の関係を解説するもので、日常生活に関連した科学的読み物です。多読用教材 Read On!も3つの文章を新規に掲載しています。

▼本文の徹底した見直しとデザインの変更

現行版から流用した教材も含め、難易度が下がるよう英文全体を見直しました。内容の深さを保つため総語数は大きく変わっていませんが、語彙と構文を平易にし、1文の長さを短くすることを中心にリライトしました。結果、1文平均語数は現行版17.7語から改訂版15.0語となり、リーダビリティ (Flesch-Kincaid Grade Level) の数値も下がりました (平均9.2→8.3)。

紙面デザインもリニューアルし、全体的な色遣いをやさしい印象に変えました。また、Lesson 8, 9などデータが重要なレッスンでは、最新の統計データからのグラフや図を追加し、本文の理

解を助けるよう配慮しました。

▼復習・定着を図る新副教材

『ワークブック・アドバンスト』

授業の流れにぴったりフィットしていると好評の副教材『学習ノート』に加え、教科書で扱った言語材料の復習と定着を図ることを中心とした副教材『ワークブック・アドバンスト (音声CD付)』を新たに用意しました。1レッスン8ページ構成で、語彙・表現・文法・本文理解の確認ができます。また、各レッスンのテーマに関連した入試長文問題も掲載し、発展的な内容もカバーしています。教科書の内容理解中心の『学習ノート』と併用することにより、生徒の理解力が格段に高まります。

▼指導資料『情報資料・活動ワークシート集』とデジタル教科書が新登場

教授用指導資料に『情報資料・活動ワークシート集』を追加しました。<情報資料編>では、教科書の内容理解を深める情報や参考資料をまとめ、生徒用のページも用意しました。<活動ワークシート編>では、Discussion・Project用のそのまま使えるワークシート案を掲載しています。

今後、ますます利活用が期待されるICT教材ですが、*Genius*も教科書に対応した指導用デジタル教科書を開発しています。教科書紙面や解答の提示のほか、スピードチェンジャー付の音読用ビューア、フラッシュカード、追加映像資料 (写真・動画) などで構成する予定です。

[体験記] レモネードスタンドを やってみました！

愛知県立豊田西高等学校JRC部



“When life gives you lemons, make lemonade!” (人生からレモンをもらったら、レモネードを作りましょう。)

これは高校1年生の時に、*Genius English Communication I* の授業で学んだ “Alex’s Lemonade Stand” の中で、小児がんと闘う Alex が大好きだった言葉です。8歳という若さで人生を終えた Alex ですが、彼女が始めたがん研究のための募金活動「レモネードスタンド」は、彼女の意志を継いで今もまだ生き続けています。

豊田西高校 JRC 部も2年間に渡って文化部発表会でレモネードスタンドを開催し、レモネードを配布しながら募金への協力を呼びかけました。1年目は先輩方に頼ってばかりだったので、2年目に僕たちだけで準備をするのは新鮮でやりがいもありましたが、とても大変でした。レモネードスタンドジャパン事務局へレモン原液とパンフレットの提供を依頼したり、当日の役割分担を考えたり、試作会をしたり、砂糖・水・紙コップ・サーバー等の必要物品の準備を進め、足りない物品



は他の部に貸してもらったりしました。値段は設定せず、募金者の気持ちに任せた金額を募金してもらうことにしました。また、多くの人に訪問してもらえよう、全クラスに宣伝活動をして回りました。当日は予想以上に

多くの先生方や生徒が訪れてくれ、引退した先輩方も手伝いに来てくれました。汗だくになりながら一生懸命レモネードを作り続けると、用意していた約550杯は瞬く間に配布し終え、募金合計金額は2万円に達していました。みんなの「困っている人の助けになりたい」という温かい気持ちが伝わってきて、この活動を企画して本当によかったと感じました。その後、集まった募金はレモネードスタンドジャパン事務局に全額寄付しました。この寄付は小児がん研究や子どもたちのウィッグの購入資金等に活用されると聞きました。

今までの JRC 部は自分たちで企画立案した活動をしたことがなく、生徒会主催の募金活動や社会福祉協議会が企画したボランティアに参加するだけでした。しかし、今回は自分たちで一から作り上げ、準備・開催する貴重な経験となりました。この活動に協力してくれた方々に感謝しています。さらに、一高校生に過ぎない僕たちが世の中で苦しんでいる子どもたちの助けに少しでもなれたと思えることがとても嬉しいです。

この活動を通して、ボランティア活動の意義を再認識するとともに、自ら行動することの大切さも学ぶことができました。このような貴重な経験をサポートして下さったレモネードスタンドジャパン事務局の方を始め、僕たちの活動のきっかけを与えてくれた *Genius* 教科書にも感謝の気持ちでいっぱいです。

今後、レモネードスタンドが世界中にさらに広がり、小児がんと闘っている子どもたちの支援が充実したものになることを願ってやみません。

Compass

English Communication

Compass English Communication I Revised

改訂のポイント

より見やすく使いやすく



岡田圭子

Compass English Communication I の改訂版ができあがりました。ご採択いただいた高等学校から「レイアウトがすっきりして使いやすい」、「取り上げたトピックがおもしろい」という声をいただいておりますので、これらの良さを活かして全体的なイメージを変えることなく改訂することを心がけました。改訂のポイントは3点です。これらについてご説明します。

▼教科書サイズの変更

Compass は、見開き2ページをひとまとまりとした構成で、見やすく進度を把握しやすいとご好評でしたが、改訂版では、教科書サイズを現行版より左右に1センチ拡大しました。このことでゆったりとしたレイアウトが可能となり、さらに親しみやすさが増したと思います。

▼教材の見直し

本書は10のレッスンと2つの補助リーディングからなっていますが、そのうち2つのレッスンと1つの補助リーディングにおいて内容の見直しを行いました。

(1) Lesson 1 “Dear Fifteen-year-olds” は、さまざまな分野で活躍する3人の日本人から高校1年生への応援メッセージを掲載し、高校英語の滑らかなスタートを目指すものですが、今回、アンジェラ・アキに加え、新しく羽生結弦選手と山中伸弥教授が登場します。フィギュアスケートで絶好調の羽生選手は高校生と年齢が近く、そのメッセージはきっとダイレクトに響くことでしょ

う。また山中教授は医学界で常に話題をリードする研究者。ご自分の学生時代を振り返り、試行錯誤の大切さを伝えるメッセージをいただきました。

あわせて図版も、羽生選手のオリンピックやジュニア時代の演技、山中教授のノーベル賞授賞式の写真などを掲載し、目で見ても楽しいレッスンになっています。

(2) Lesson 3 “Kimonos are Cool!” は日本の伝統文化としての着物を取り上げたもので、現行版で好評だったトビラ写真やタイトルはそのままに、内容と構成を一新しました。着物文化が国内外で人気を博していることをブログ記事などを通して紹介しています。また、着物をリメイクした作品やデニム生地の着物などの紹介を通して若者も着物文化を楽しんでいる様子を伝え、より読みやすく興味をかきたてるレッスンになりました。リメイク小物や海外のアーティストの着物姿など、写真図版も楽しんでいただけます。

(3) 補助リーディング2 “Saved by Sport” では、2013年に行われたIOC総会の最終プレゼンテーションで感動的なスピーチを行い、2020年東京オリンピック・パラリンピック誘致に大きく貢献した義足の走り幅跳び選手・佐藤真海さんの半生を取り上げました。病気を乗り越え、初めての競技にチャレンジするまでの道のり、また震災復興活動や全国の学校訪問など、佐藤さんの諦めない生き方は読みごたえがあります。ご本人の協力を得て、ダイナミックなジャンプの写真も掲載しました。

以上は改訂版の変更点ですが、現行版 *Compass* の理念はそのまま改訂版に活かされています。

▼関心や意欲を高めるトピック

どんなに緻密に編まれた教科書であっても、内容が興味を引くものでなければ失敗作となってしまいます。*Compass* は「4技能の総合的な育成を効果的に行うために、そうした活動にふさわしい題材を選ぶ」こと

を念頭に、自国の文化や歴史、科学技術や自然、コミュニケーションなど、興味深いトピックを厳選して取り上げています。「チョコレートの歴史」、「イグノーベル賞」、「自然界のナンバーワン」など、生徒の関心を引きつけつつ、英語学習に取り組める内容です。

▼確実な基礎固めと高校英語への無理のない導入

読んだり聞いたりして知識をつけ、それについて自分なりの考えを持ち、話したり書いたりすることで自分を発信することを目標に、見開きの左ページに本文、右ページに解説とタスクを配置しています。これらは、Answer it! (内容把握)、Focus on it! (各パートに1項目の重要文法事項)、Check it! (重要文法項目の確認問題)、Use it! (重要文法事項を使った簡単な会話練習)の4項目からなり、常に左ページの本文を参照しながら活動することができます。学習指導要領の趣旨の通り、文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導と言語活動を一体的に行えるシンプルで豊富なタスクが豊富であるのも、本教科書の大きな特徴となっています。

また、教科書の前半は中学校の文法項目の復習を中心としており、徐々に高等学校の文法を導入することで、中学英語の定着と無理のない高校英

The screenshot shows a lesson page with the following sections:

- Part 2**: 以下のブログでは、着物をもとのように紹介しています。
- International Kimono Club**: A reading passage about kimonos, including a photo of people in kimonos and a list of vocabulary words like 'international', 'precious', 'useful', 'granddaughter', 'cushions', 'cellphone', and 'sashes'.
- Answer it!**: Three questions about the International Kimono Club members meeting.
- Focus on it!**: A grammar exercise focusing on the word 'because'.
- Check it!**: Two multiple-choice questions testing understanding of the text.
- Use it!**: A writing task where students describe their hometown.

Lesson 3

語へのステップアップが可能です。

▼4技能の統合的な指導

レッスン末には、Review, Practice, Enjoy Communicationが配置されています。Reviewではその課の内容理解をリスニングのT/F方式で確認し、サマリー文や手紙文、並べ替え方式など本文の内容に合わせた形式でさらなる理解を図ります。Practiceではイラストをヒントとした英文完成などを通して使用場面や機能を意識させながら文法や重要表現の定着を図り、そしてEnjoy Communicationでは本文テーマに関連したコミュニケーション活動を行います。本文で学んだ内容を4技能を使って振り返ります。

*

以上、*Compass* の改訂版おすすめポイントと基本理念を説明しました。英語が苦手な生徒も、もっと勉強したい生徒も、それぞれに楽しみながら新しい発見をしてもらえる教科書、少しずつステップアップしながら英語力をつけていける教科書、それが *Compass* です。執筆陣が心を合わせ、知恵を出し合い、話し合いを深めながら書き上げました。ぜひ、教室で生徒と一緒に楽しく使ってみてください。

(おかだ けいこ・獨協大学教授・外国語教育研究所長)

Compass

English Communication

新『学習ノート』で生徒を鍛える

中野義雄



期待と不安を胸にコミュニケーション英語の授業を始めてから早3年。オーラルインタラクションやリスニングを通じた概要把握、単語のクイックレスポンス (QR)、ペア音読、虫食い音読、絵や図を描きながら内容をまとめた後のリプロダクション等々、この3年間は *Compass* を使って新課程の指導法を模索しながら、生徒と楽しく英語を学んできました。これまで授業プリントは、指導資料データを加工して作成していましたが、新しくなった『学習ノート』を見ますと、授業ノートの要素が新たに盛り込まれ、各パートは教科書と同じ見開き2ページ構成になっており、これ1冊で授業づくりができそうです (→p.13)。本稿では、4技能をフルに使った『学習ノート』の使い方を考えてみます。

左ページ冒頭に掲載されている教科書本文は、行間に書き込みができるようスペースが十分に設けてあるので、そこに正しい英文理解に必要な事柄をどんどん書き込んで、英語の理屈を頭に叩き込みます。また、スラッシュ付きなので、英文がしっかり理解できたら、意味のまとまりを意識しながらスラッシュリーディングをします。リピートや斉読、read & look up やなりきり音読、スラッシュごとの口頭和訳などペアで練習します。目標は、まっさらな教科書の本文を使ってのチャンクリーディングと口頭和訳。目標達成をめざして本文を何十回と読み込みます。

左ページ下段にある単語の意味調べは、予習等で意味を確認したら、英日のQRペア活動で音声と意味をつなげて、仕上げにノートや宿題プリン

トで書く練習をします。もっと生徒に負荷をかけるには、新出単語を含むフレーズや文をまるごとQRします。例えば新出単語 *past* のQRは、「私の過去」↔ “my past”, 「私の過去からの手紙」↔ “the letter from my past”, 「私は自分の過去からの手紙を読んだ」↔ “I read the letter from my past” の順序で、単語→句→文と長くしていきます。他の文もすべてQRできるようにすれば最強!と生徒を煽ります。

右ページ上段は、文法の確認です。「現在の状態や習慣的動作を表すには、現在形の動詞を使う」などの文法説明がありますので、ペアで現在形の動詞を20個挙げたり、every morning や usually を使った例文を5個作ったりなどの活動を通してしっかり理解します。下段にある英問英答と日本語要約の空所補充は、より力がつくよう、英問英答は何も見ないでペアでやりとりできるまで練習し、Part 4まで学び終えたら、計12個の質問をランダムにペアで出し合います。また日本語要約は、習った本文を参考にしながら和文英訳した後、ペアで翻訳活動するのもよいでしょう。

各レッスン末にあるまとめのExerciseでは、新たにT/F問題と英語要約の空所補充が追加されました。T/Fはペアで全ての選択肢をリーディングし、要約はキーワードのみノートに書き出してリプロダクションすると力がつきそうです。

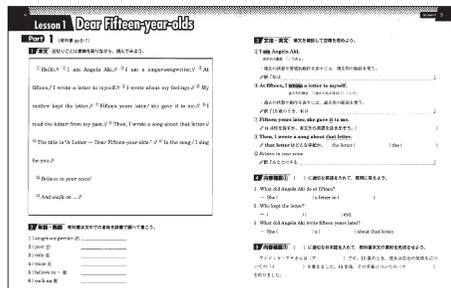
生徒の習熟度や単元の目標に合わせて、実施する帯活動を精選して、どんどん生徒を鍛えてあげましょう。

(なかの よしお・愛知県立犬山高等学校教諭)

Compass English Communication I Revised

付属教材新アイテムのご紹介

編集部



学習ノート

Compass コミュニケーション英語の教科書を支える副教材と指導書をさらに使いやすく改良しました。

『学習ノート』（生徒用）

従来の学習ノートに、予習・授業ノートの要素を加えて、より使いやすいワークブックになりました。各レッスンはパートごとの予習・授業ノートと、レッスンまとめの練習問題という構成になっています。

〈各パート〉（見開き2ページ）

1. **本文**：教科書本文にスラッシュリーディングの区切りを入れ、広めの行間を取りました。区切りごとに意味を取りながら音読したり、注意事項や訳などを行間に書き込むことができます。

2. **単語・熟語**：文中で使われている品詞を添えたので、辞書を調べるときの手がかりとなります。

3. **文法・英文**：そのパートのターゲット文法や、注意すべき構文、既習の文法の再確認など、本文を読む際に確認しておくべき箇所、つまりきやすい箇所をピックアップして、簡潔な説明と確認問題を用意しました。

4. **内容確認①**：教科書の右ページに掲載された Answer it! を、授業で英問英答できるよう、穴埋め形式で補助します。

5. **内容確認②**：本文を日本語で要約した文章の穴埋めをすることで、本文の内容をきちんと理解できているかを確認します。

〈レッスンまとめ〉（見開き2ページ）

1. **単語**：簡単な英語で説明されている単語を選択させる設問です。英々辞典のスタイルに慣れる

第一歩にもなります。

2. **発音**：アクセント問題や音素の相違問題など、設問の形にバラエティがあり、入試や資格試験の問題形式にも慣れることができます。

3. **文法**：そのレッスンで学んだ文法の定着を確認する選択・並べ替え問題は、設問同士につながりを持たせたり、対話形式にするなど、文脈の中で解答できるように配慮しました。

4. **文法・表現**：新出フレーズや文法を使った簡単な英作文問題で、書く力も育成します。

5. **内容確認①**：教科書掲載の T/F 問題にプラスした5問で、内容理解をさらに確認します。

6. **内容確認②**：最後に、キーワードを空所に埋めて英語の要約文を完成させます。前半レッスンでは選択肢を与えるなど、段階的に慣れるように配慮しました。

副教材はほかに、新語と新出フレーズ、新出文法の定着を図るワークブック『単語・文法練習ドリル』もご用意しています。

『情報資料集』（教授用）

従来、Teacher's Manual 冊子内に掲載していた、教材の背景知識や関連情報を、新たな写真も加えて別冊として編集し直しました。各レッスン、教師用4ページ、生徒用2ページの構成で、生徒用は教材の理解をさらに深めるプリントとしてそのまま印刷して配布していただけます。

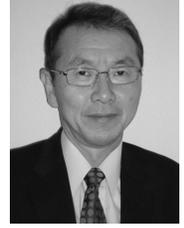
その他、Teacher's Manual にオーラル・イントロダクション例や内容理解の補充設問、文法補充例文、パフォーマンステスト実施・評価法などを補充し、より充実した内容となりました。

Departure

English Expression

Departure English Expression I Revised の目指すもの

山岡憲史



▼『Departure 英語表現 I』に込めた願い

『Departure 英語表現 I』は、生徒の英語表現力を伸ばしたいと望んでおられる熱心な先生方に、高い評価をいただけてきました。「生徒がどんどん英語を書くようになって、それが表現力だけでなく英語を読む意欲にもつながっている」「生徒の知的な関心を惹くテーマについて表現するなかで、文法事項が自然と定着する」といった声をいただくたび、私たちが目指したことが形となって現れたことを実感しています。

1. 文法を学んで使う

文法の知識はコミュニケーション能力の中でも最も大切なもののひとつです。しかし、文法知識があることと、それを使って表現できることとは同じではありません。言葉で説明できる知識（宣言的知識）を実際に運用できる知識（手続き的な知識）にするには、文法の形式に慣れるように練習し（practice）、それを実際に使う（production）ことが欠かせません。また、practiceを重ねて形式に習熟しても、適切な文脈の中でそれが正しく使えるとは限りません。学習者はそのなかで何度も間違いをして、ようやく自然な手続き的な知識を獲得していきます。しかし、学習すべき文法事項が多すぎると、その全てを表現のレベルにまで引き上げることは困難です。

重要な基本的文法事項を習得し、それを使って論理的な英文を書くこと——このプロセスの繰り返しが生徒たちの書く力の向上につながったのだと思います。

2. 読む・聴くことを通じて文法に習熟する

『Departure 英語表現 I』には、文法事項の演習をした後に、リーディングとリスニングの活動を設けました。その趣旨は、学んだ文法事項を実際の文脈の中で確認してほしいというものです。文法の機能は context や discourse の中で決まり、発揮されます。表現する前に読んだり聞いたりして文法の文章の中での振る舞い方を理解することは極めて大切と考えます。

また、表現する際には文法だけでなく、テーマに沿った語彙を知っておくことも重要です。表現すべき内容についての理解を深め、語彙の習得を目指して「コミュニケーション英語」の読解量を補うことも、「英語表現」の教科書にリーディングとリスニングに特化した活動を取り入れた狙いです。

▼『Departure 英語表現 I 改訂版』の目指すもの

1. 文法事項の充実

2017年4月に使用が開始される『Departure 英語表現 I 改訂版』では、各課の文法事項を大幅に増やしました。これは、「高校1・2年生のうちに行える限り文法に習熟させたい」という現場の先生方のニーズに応え、表現の幅を増やそうという思慮に基づいています。しかし、前述のとおり、表現するための文法が多すぎると理解と暗記に多くの負担を強いるため、表現レベルまで引き上げることが難しいという考えのもとに、網羅的になることを避ける配慮をしています。

例文の内容は、初版と同じく、その課のテーマ

に沿ったものになっています。例えば「尊敬する人物」の課では、モーツァルト、ガンディー、吉田松陰、伊能忠敬、オードリー・ヘップバーン、ローザ・パークス、スティーブン・ホーキングス、ベートルズなどのほか、女性指揮者として世界的に有名な西本智実さんを登場させています。無味乾燥で凡庸な例文を廃し、内容のあるものにするこ
とで、生徒の知的関心や学習意欲を引き出したいという期待を込め、例文を丹念に作っています。

2. 英文完成とグラマリングの演習

前述したとおり文法を理解した後はその演習が必要です。その際、機械的になり面白味に欠けることはある程度やむを得ませんが、『Departure 英語表現 I』では、この部分にもできる限り知的に興味深い例文を用いています。

改訂版では、新たに文章を完成させる問題とグラマリングの演習を取り入れました。文章を完成させる問題は、文章中の文法的にポイントとなる部分を空所にし、そこに適切な語句を選択肢からあるいは文脈から考えて入れるという形式です。初版では文法への「気づき」を促すために、課の最初に文章を置いていましたが、一歩進んで文脈を考えながら文法の形や意味を判断するという作業にすることにより、読むことから表現することへの橋渡しになると思われます。

グラマリングは、文法を使って語句を意味の通る文にするプロセスです。改訂版では和文英訳にこの手法を取り入れ、文法を使うという意識を醸成するための演習を設けました。例えば、「彼はバスで通学しています」を英文にするにあたって、He, to school, bus. の、の部分に語句を入れて完成させるというものです。この演習によって、文法を実際に使うという意識を高めて和文英訳につなげるように工夫しています。

3. 「聴く」「読む」から「書く」「話す」へ

「4技能を使って文法を習得する」という従来の方針は変えることなく踏襲しています。リスニングとリーディングによって、まとまった文章の

中で文法を意識しながら理解し、さらにテーマに関するさまざまな知識を得ることができるよう興味深い内容にしています。聴いた後、読んだ後には内容に関する英語の質問に答える活動があります。11課以降では読んだ後に個人の意見を問う質問も用意して、自己表現につなげています。

ライティングは、初版の特徴を残して、プロセスを踏んで書く活動につなげるという手順を踏んでいます。ただ「書きなさい」という指示を与えるだけでは、どのように書けばいいかわかりません。語彙や表現を与えるだけでもまだ不十分です。coherency や discourse をしっかり理解し、どの情報をどのように盛り込めばわかりやすい文章になるかを示してやるのが、入門期のライティング指導の要諦でしょう。『Departure 英語表現 I 改訂版』では、質問に答えたり英文を完成したりして書き出した情報をモデルパラグラフに則って書いていけば1パラグラフが完成するというプロセスを提示しています。このようにして容易に書けることを体感させ、書くことへの自信を持たせることが、「どんどん書く」という態度や意欲につながるのだと確信しています。このようにフレームに従って書かせることはまた、生徒の作品の添削の容易さにもつながります。

*

英語で表現することには、言語的な知識、談話的な理解などとともに、生徒が意欲的に書こうとする姿勢を養うことが必須です。『Departure 英語表現 I 改訂版』は、高校生の知的好奇心を刺激するようなテーマを扱い、「文法を使う」という観点で無理のない手順を踏んで表現への意欲を伸ばす工夫を随所に凝らしています。生徒の「表現力」「構想力」といった literacy とともに「課題発見力」「自信創出力」などの competency を身に付けさせる教科書として、先生方のお役に立てることを願っています。

(やまおか けんじ・立命館大学教授)

Departure

English Expression

料理人の心に火をつける教科書 *Departure English Expression I* *Revised*

加藤美枝



本稿では、新科目だった「英語表現 I」を *Departure I* を使ってどう展開したか、どんな成果があったか、そして改訂版 *Departure I* では 2 巡目となったこのカリキュラムに対し、どんな試みが可能になるか、を述べていきたい。

✔ *Departure I* を選んだポイントとその成果

① 明確な目的と適切な scaffolding

「使うための文法知識」を習得する、という明確な主張のある教科書だという理由で *Departure I* が採択された。レッスンの最後にはまとまったものを書き、発表する、というこのルーティーンのおかげで、全ての生徒が 100 語程度難なく書くようになった。高校入試で課せられる数行の自由英作文にも苦勞していた 1 年前の生徒たちを考えると、大きな成果といえる。それを可能にしたのは、出口活動に至るまでに入念に仕組まれた足場掛け (scaffolding) だと思う。生徒はそのレッスンの目標文法を使いながら、最初のレッスンから、無理なく書くことができていた。モデルパラグラフに沿って、テンプレートを埋めていけば自然に作品ができる仕組みだが、出来上がったものは生徒のオリジナルであり、自分の作品として、自信を持って発表をしていた。

前半の 3 ページに提示された体温のある例文も準備段階の足場として機能した。表現活動において、モデル文の内容は生徒の作品に大きく影響する。生徒の興味関心を引くようなモデルを提示されたとき、生徒の「書きたい」意欲は刺激される。例文が目標文法・トピックに全て関連があ

る、というのはもちろんだが、読解・聴解用のまとまった例文には、トピックと関連した語句が散りばめられ、また知的好奇心をくすぐる内容になっている。それまでの「文法演習」の授業にはない膨らませ方ができたと思う。

② 授業とパフォーマンス・テストの関連

パラグラフ・ライティングを定期考査に含め、それとは別に、年 4 回スピーキング・テストを行った。各ページに設けられたペアワーク等のインタラクティブな活動に沿って、生徒が事前に準備できる部分とその場で対応する部分を盛り込んだ内容にした。どちらも毎時間の授業で行った活動に多少変化を持たせたものだったので、作成する側も受ける側にも大きな負担もなくなってきたと思う。

③ 授業力の向上

「英語表現」という新科目は、担当職員を団結させた。授業者の創造力で様々な料理が可能な部分が多く、自分でハンドアウトを作るのも、同僚が作るのを見るのも楽しかった。1 年目は試行錯誤の連続だったが、2 年目に引き継いだ担当教諭らの作ったハンドアウトは素晴らしく、ここで披露できないのが残念だ。

④ 英語表現 I その後

2 年生になってもプレゼンテーションやディベート等を行ったが、生徒の発信力は衰えず、内容に鋭さ、専門性が加わり、授業に表現活動を盛り込むことは当然になってきた。

一方、文法演習の授業を 1, 2 年で行わなかったことに対し、心配する声も上がった。模擬試験の文法的知識を問う問題に苦戦を強いられたが、

3年になってから徐々に克服し、センター試験の結果も良好で正直ほっとした。また、県から指定を受けて行った TOEFL の結果は良く、英語検定でも好成績を上げている。

✧ *Departure I Revised* でさらに可能になること

教科書作成という責任の重い仕事に関わり、この2年間本当にたくさんのことを学ばせていただけたことに感謝している。私の役どころは「普通の英語教師」が「質の高い授業」を提供できるような教科書になるよう、現場の視点を伝えることだったと思う。*Departure I* の目指すところが変わりはないが、さらにこんなことができるのでは、という点について述べたい。

①レッスンの目的を可視化

現行版も同様のコンセプトで作られているが、各レッスンの最初に Can-Do を確認することで、「ここでは何ができるようになるか」ということについて、より明確な意識づけができると思う。

②自然で効果的な導入

レッスンの内容と関連のある small talk は warm-up として最適である。またこの導入部が、出口活動にも関連しており、レッスン全体を緩急のある自然な流れで運ぶことができる。

③多様な例文

現行版では Expressions の例文が少ない、と指摘する同僚もいた。改訂版ではかなりその点はカバーできていると思う。量以上に英文の中身も深い。単に目標文法を押さえるだけでなく、一文一文に背景があるので、重くならない程度に内容を膨らませることで、文法説明に終わらない展開にできる。

④文脈のある演習問題

Get Ready to Express Yourself の②は、文脈の中でどう目標文法を使うかを問う問題である。巻末に日本語の訳文が掲載されているが、英文のまま解釈し答えられるようにしたい。また、ここを暗唱させるのもいいかな、と今は考えている。

以前は Expressions の例文を暗唱させていたが、文脈の中で押さえたほうが、目標文法の使い方をイメージしやすいし、Write a Paragraph の準備にもなるからである。

⑤各ページのスピーキング活動

Warm-up, Express Yourself, Read Up, Speak Up, ひとつひとつは軽い活動であるが、継続的に行うことで、確実に生徒のスピーキング力はつく。

⑥わかりやすいタスク

現行版の Get More Informed は内容的に面白かったが、正直なところどう扱ってよいかわからない部分もあった。改訂版では、新しく刺激的な題材もさることながら、内容把握の確認がしやすいタスクで活動がしやすくなっている。

⑦生徒の作品を教材に

Write a Paragraph は今までと同様にやっていきたいが、今度は生徒の作品を題材にして scanning や listening, interaction の教材を作りたい、と考えている。

⑧これさえあれば何もいらぬ

現行版をもとに + α の活動を作るのは楽しかったし、改訂版でも料理人の心につける素地は十分にある。しかし、日々の雑務に追われる中で全てのレッスンでそれを行うのが難しいのもまた事実である。その点改訂版は、この教科書をこの流れの通りに行えば、有機的な活動を4領域全てに渡って行うことができる。あとは、刺激を受けた生徒の創造力を楽しむだけ、だと思う。

*

新カリキュラム元年の生徒達も受験生になった。大学受験が全てではないが、やはりここで結果が出ないと3年間の指導の意味が問われるのが現実である。年々自由英作文を課す大学が増えていくが、添削指導が今までよりスムーズになっている感じがする。彼らの健闘を祈り、最後まで伴走したい。

(かとう みえ・岐阜県立斐太高等学校教諭)

Departure English Expression I Revised 副教材

ここが変わった『グラマーノート』(英語表現 I)
～『ライサポ』で真の英作文力を (II)

編集部



2種類の「グラマーノート」

学習指導要領では、4技能を統合的に活用できる実践的なコミュニケーション能力を育成し、その基礎となる文法の定着を図るため、両者の指導を一体的に行うことが求められています。

Departure 英語表現 I・II はまさに新学習指導要領に合致した教科書です。その準拠問題集は、教科書を補完し、コミュニケーション能力(文法能力、社会言語的能力、方略能力、談話能力)の効果的な育成を目指しました。

▼ 2種類の『グラマーノート』から選べます

表現 I 準拠問題集『グラマーノート・スタンダード』は、左ページに教科書の文法項目の解説、右ページに語句整序・空所補充・適語(句)選択による確認問題という構成になっています。教科書1課につき4ページ構成で、教科書では足りなかった文法解説とその練習問題を豊富にご用意しました。

『グラマーノート・ベーシック』は、中学編と高校編の2部構成になっています。中学編(各章2ページ構成)では中学の文法項目の復習を扱い、左ページで文法項目の解説、右ページでその理解確認問題という構成になっています。高校編(各章2ページ構成)は教科書の各課に対応した目次立てで、2ページ見開きすべて練習問題という構成になっており、教科書の例文の定着を図る問題から、中学編と教科書から得た文法知識を応用して文法力を鍛える問題までご用意しました。

先生方の指導形態に合わせてどちらかの問題集を活用していただき、Departure 教科書での学習

がより効果的なものとなるよう制作しました。

▼ 『ライティング・サポート・ノート』:

英作文力養成から大学入試対応まで

表現 II 準拠問題集『ライティング・サポート・ノート』は、教科書の Part 1 と Part 2 に対応したワークブックです。Part 1 で文法を扱いますが、表現 I の切り口とは異なり、単文の組み立てに focus しています。つまり、[表現したい内容のイメージ→適切な語彙と文構造の選択→書く・話す]という表現プロセスを各課で学習します。

Part 1・2 共通の目標のひとつは、「言い換え」(paraphrasing) の方略能力を駆使して、一見難解な日本語表現でも既知の語彙で表現できるスキルを習得し、speaking や writing の応用活動の基礎を構築することです。

Part 2 の最終目標は、文章に一貫性のある談話能力を発揮し paragraph で自己表現することです。

Departure 教科書準拠問題集は、表現 I・II を通して、コミュニケーション能力全般を確実に習得できるようにデザインされています。また、『ライティング・サポート・ノート』 Part 1・2 の advanced ページは、大学入試問題を盛り込み、受験対策としても活用できます。

*

この度、小社では総合英語参考書『ジーニアス総合英語』と3種類の準拠テキスト、ワークブックもご用意しました。あわせてご活用いただければ幸いです(→ p.19)。

[コラム]

『ジーニアス総合英語』 来春誕生！

編集部



『ジーニアス総合英語』

「ジーニアス」ブランドの新商品『ジーニアス総合英語』が来春誕生します。発信型英和辞典の先駆けと言える『ジーニアス英和辞典』はその丁寧な語法解説でご好評をいただいておりますが、『ジーニアス総合英語』はいわば「文法版のジーニアス」です。

『ジーニアス総合英語』は「コミュニケーションのための英文法」を意識した解説を目指し、高校生が4技能の土台としての文法力を身につけるのに役立つようになっていきます。日々の学習はもちろん、大学入試のための勉強のよきパートナーともなってくれるはずです。

編集主幹は、*Departure English Expression* の編集主幹である山岡憲史先生と『ジーニアス英和辞典 第5版』(G5) 編集委員の中邑光男先生。高校生向けの教科書・辞書に深く関わっているお2人だからそのツボを押さえた解説となっています。なお、編集委員には英語指導の経験が豊富な高等学校や予備校の先生も含まれています。

『ジーニアス総合英語』の大きな特長は、G5と内容的に連携していることです。ポイントとして例えば以下の3つを挙げることができます。

① G5の用例を取り入れている。

「辞書は用例が命」ですから、G5の用例も、ネイティブチェックをはじめ何重ものチェックを経て掲載に至っています。その信頼できる英文を『ジーニアス総合英語』にも取り入れています。また、G5も一緒に使用している高校生なら、G5で見た英文を『ジーニアス総合英語』で見ると（逆

もあります）こととなりますから、英語表現の定着にもつながるでしょう。

② 間違いやすいことを非文情報で示している。

『ジーニアス英和辞典』が人気を得た理由の一つに、(×で示した) 非文情報が充実していることがあります。非文情報は『ジーニアス総合英語』にも多く載せています。学習者が間違いやすいことがあらかじめ示してあったり、文法的に正しいと見なせるか微妙な表現にジャッジを下してあったりすることは、学習者はもちろん、先生方にも有益だと思います。

③ 「Question Box」で学習者の疑問に答える。

『ジーニアス総合英語』にはいくつかのコラムがありますが、中でも目玉は「Question Box」です。文法・語法的に興味深いことや掘り下げて知っておくとよいことが、Q&A形式で説明されています。コラムの執筆はG5の語法担当編集委員であり、『英語教育』誌の「Question Box」の回答者でもある柏野健次先生が担当。したがって、当然、G5の語法記述がベースになっています。

『ジーニアス総合英語』には準拠テキストとワークブックをそれぞれ3種類ご用意いたします。授業形態に合わせてお選びいただけます。また、問題作成ソフトや英文音声もご用意します。

詳しくは本誌21ページとパンフレット、そして5月出来予定の一部見本をご覧ください。秋には見本本で全体をご確認いただける予定です。

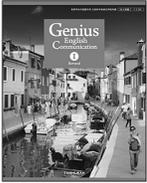
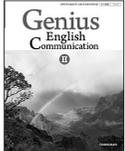
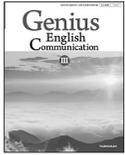
*

新しい「ジーニアス」の誕生にご期待ください！

大修館書店の副教材・指導資料のご案内

*定価＝本体価格＋税

【Genius English Communication】

教科書	副教材	指導資料
 [コ I 338]	学習ノート B5判・112頁＋別冊解答32頁 [予定] 本体予価620円	教授用指導資料 (3分冊＋CD-ROM [予定]) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可), 情報資料・活動ワークシート集, 指導用 CD-ROM
	ワークブック・アドバンスト B5判・88頁＋音声 CD＋別冊解答48頁 [予定] / 本体予価700円	指導用音声 CD (7枚組＋スクリプトブック [予定]) 内容 [予定]: Lesson 本文 (ナチュラルスピード, スラッシュリーディング), 新語, サマリー例, Read On! 本文, ほか
	生徒用音声 CD (2枚組 [予定]) 内容 [予定]: Lesson 本文ナチュラルスピード, 新語 本体予価1,000円	指導用デジタル教科書 (CoNETS 対応版 [予定]) 授業用パワーポイントスライド集 (Windows 版 [予定])
 [コ II 312]	学習ノート B5判・112頁＋別冊解答32頁 本体570円	教授用指導資料 (2分冊＋CD-ROM) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可: 本体3,000円), 指導用 CD-ROM / 本体17,000円
	文法・構文ドリル B5判・24頁＋別冊解答12頁 本体290円	指導用音声 CD (7枚組＋スクリプトブック) 内容: Lesson 本文 (ナチュラルスピード, スラッシュリーディング), 新語, Read On! 本文, ほか / 本体17,000円
	生徒用音声 CD (2枚組) 内容: Lesson 本文ナチュラルスピード, Read On! 本文 / 本体1,140円	授業用パワーポイントスライド集 (Windows 版, DVD-ROM 1枚) 本体7,000円
 [コ III 310]	ワークブック B5判・96頁＋別冊解答24頁 本体680円	教授用指導資料 (2分冊＋CD-ROM) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可: 本体3,000円), 指導用 CD-ROM / 本体18,000円
	生徒用音声 CD (2枚組) 内容: Lesson 本文ナチュラルスピード, Read On! 本文 本体1,140円	指導用音声 CD (7枚組＋スクリプトブック) 内容: Lesson 本文 (ナチュラルスピード, スラッシュリーディング), 新語, Read On! 本文, ほか 本体18,000円

【Compass English Communication】

教科書	副教材	指導資料
 [コ I 337]	学習ノート B5判・112頁＋別冊解答24頁 本体予価700円	教授用指導資料 (3分冊＋CD-ROM [予定]) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可), 情報資料集, 指導用 CD-ROM
	単語・文法練習ドリル B5判・48頁＋別冊解答8頁 本体予価300円	指導用音声 CD (5枚組＋スクリプトブック [予定]) 内容 [予定]: 本文 (ナチュラルスピード, スロースピード, スラッシュリーディング), 新語, リスニング問題, ほか
	生徒用音声 CD (2枚組 [予定]) 本体予価1,000円	デジタル教材集 [予定]
 [コ II 311]	学習ノート B5判・84頁＋音声 CD＋別冊解答24頁 本体660円	教授用指導資料 (2分冊＋CD-ROM) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可: 本体3,000円), 指導用 CD-ROM / 本体15,000円
	単語・文法練習ドリル B5判・48頁＋別冊解答8頁 本体290円	指導用音声 CD (7枚組＋スクリプトブック) 内容: 本文 (ナチュラルスピード, スロースピード, スラッシュリーディング), 新語, リスニング問題, ほか 本体15,000円
 [コ III 309]	学習ノート B5判・72頁＋音声 CD 2枚＋別冊解答28頁 / 本体780円	教授用指導資料 (2分冊＋CD-ROM) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可: 本体3,000円), 指導用 CD-ROM / 本体17,000円
		指導用音声 CD (6枚組＋スクリプトブック) 内容: 本文 (ナチュラルスピード, スロースピード, スラッシュリーディング), 新語, リスニング問題, ほか 本体17,000円

【Departure English Expression】

教科書	副教材	指導資料
 [英 I 327]	グラマーノート・スタンダード B5判・84頁＋別冊解答40頁 [予定] 本体予価620円	教授用指導資料(3分冊＋CD-ROM[予定]) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可), 教科書ワークシート, 指導用 CD-ROM
	グラマーノート・ベーシック B5判・80頁＋別冊解答40頁 [予定] 本体予価620円	指導用音声 CD (6枚組＋スクリプトブック [予定]) 内容 [予定]: 本文 (ナチュラルスピード, スロースピード), リスニング・スクリプト, 評価問題集, ほか
	生徒用音声 CD (1枚 [予定]) 本体予価1,000円	デジタル教材集 [予定]
 [英 II 306]	ライティング・サポート・ノート B5判・104頁＋別冊解答72頁 本体570円	教授用指導資料 (3分冊＋CD-ROM) Teacher's Manual, Teacher's Book (分売可: 本体3,000円), 教科書活動用シート, 指導用 CD-ROM/本体16,000円
	生徒用音声 CD (1枚) 本体930円	指導用音声 CD (6枚組＋スクリプトブック[予定]) 内容: 本文 (ナチュラルスピード, スロースピード), リスニング・スクリプト, 評価問題集, ほか 本体14,000円

★新登場！ 『ジーニアス総合英語』(2017年4月刊行予定)

来春、大修館書店から新しく『ジーニアス総合英語』が誕生します。『ジーニアス英和辞典 第5版』, *Departure English Expression* シリーズと連携させれば、さらに充実した英語学習が可能で
す。内容についてのご紹介は、19ページをご覧ください。

	準拠テキストブック	ワークブック
ジーニアス総合英語 (オールカラー) A5判・640頁 本体予価1,500円	46 Lessons (2色刷) B5判・144頁＋別冊解答解説書 本体予価640円	46 Lessons B5判・96頁＋別冊解答解説書 本体予価540円
	27 Lessons (2色刷) B5判・136頁＋別冊解答解説書 本体予価620円	27 Lessons B5判・96頁＋別冊解答解説書 本体予価540円
	23 Lessons (2色刷) B5判・128頁＋別冊解答解説書 本体予価600円	23 Lessons B5判・88頁＋別冊解答解説書 本体予価540円

*他に自動問題作成ソフト・音声などもご用意いたします。
*頁数は予定です。

著者紹介

◎**編集主幹** 山岡憲史 (立命館大学教授・*Departure English Expression* 編集委員代表), 中邑光男 (関西大学教授・『ジーニアス英和辞典』編集委員)

◎**編集委員** 柏野健次 (大阪樟蔭女子大学名誉教授・『ジーニアス英和辞典』編集委員 [語法]) / 加藤治之 (京都府立嵯峨野高等学校教諭・*Departure English Expression* 編集委員) / 富永 幸 (滋賀県立膳所高等学校教諭・『ジーニアス英和辞典』執筆者) / 吉田健三 (神戸大学アドミッションセンター特命准教授・*Departure English Expression* 編集委員) / 福崎伍郎 (代々木ゼミナール講師) / 北野マグダ・レーナ (文教大学専任講師) / ほか1名

◎**英文校閲** Lance Eccles (『ジーニアス英和辞典』英文校閲者)

シャーロック・ホームズの成功の秘訣

名探偵の人生訓

デヴィット・アコード 著

大原千晴 訳

四六判・210頁
本体1,600円+税

[評者]

石澤季里



ホームズの名言から知る

原作者ドイルの人生訓

誕生から100年以上の月日を経て、今なお、絶大な人気を誇る名探偵シャーロック・ホームズシリーズ。その人気は衰えることを知らず、つい最近もベネディクト・カンバーバッチ主演の映画が公開されたり、三谷幸喜演出の人形劇がNHK総合TVで放映されたりと、手を替え品を替え描き続けられています。

食文化ヒストリアンでもある本書の翻訳家、大原千晴氏は、ヴィクトリア時代のミドルクラスの食卓について調べるなかで、偶然、この1冊と出会ったのだといいます。

「イギリスでは、現代でも主婦の間で『ミセス・ビートンの家政術』が手引きとして用いられています。著者のイザベラが短命だったにもかかわらず、この本は長命なんです。そして、その影の仕掛け人である夫が編集に携わっていた『クリスマス特別年鑑』に、なんと、ホームズシリーズの第1号目『緋色の研究』が収録されていたんです！ それを知ったときは大変な衝撃を受けました。なぜって、ヴィクトリア朝の名著が2冊とも同じ編集者によって誕生していたとはね。そして、双方が脈々と読み継がれているんですから。」

作家である前に、英国初の眼科医であったドイルは、本書第9章で書かれているように、何のコンネもない底辺から「好きこそもの上手なれ」を座右の銘に、「作家こそ天職」と信じてホームズシリーズの56の短篇と4つの長篇、その他、科学から心霊現象まで、多方面にわたる小説を35篇、その上、南アフリカのボーア戦争のルポを含む12篇のノンフィクションを生み出しました。このあたりの苦労話は第2章、第3章にたっぷり書かれていますが、名探偵シリーズの大ヒットの陰に、他の名作が埋もれてしまったという、作家の複雑な心の内もあったようです。

また、本著では、多趣味で並はずれた行動力の持ち主だったドイルが、心霊現象にはまったり、探偵業に手を染めて無実の罪から人を救ったり、医学部在籍中に北極海でアザラシに助けられたり、そんなエピソードから学んだ知恵がホームズという人物を通して描かれています。同様に、彼の人間形成の支軸となった中世の騎士道精神は、そのままホームズにも受け継がれています。ヴィクトリア朝でさえ時に変人扱いされるその志を、ホームズは曲げることなく貫き通すのです。

本著は異色の「ホームズ入門書」であり、名探偵に自らの生涯を投影したコナン・ドイルの自己啓発本です。そして、「天賦の才能」+「努力」+「強い目的意識」で作家として大成功を収めたドイル＝ホームズからの激励のメッセージが多々詰まっているのです。

(いしざわ きり・カルチャー・サロン「プティ・セナクル」主宰、手工芸研究家)

〈明治から昭和まで〉

日本の英語教育を彩った人たち

外山敏雄 著

四六判・248頁
本体2,100円+税

[評者]

竹中龍範



日本の英語教育史

——誰がどんなことを

日本で英語が教えられ、学ばれるようになってすでに200年を超える。そこには数知れぬドラマがあり、成功・挫折が繰り返されてきたはずである。その歴史はどのようなものであっただろうか。

本書は、「北国の港町 [=小樽]で」「[高等教員] 検定試験でわが道を切り拓いて」「人の世の悲しみ」「茨城ゆかりの人びと」「郁文館をめぐる」「書物と人と」「札幌農学校の光芒」「日本の英語教育史をたどる」の全8章から成るが、著者がこれまで諸誌に発表してきた論考に今回新たに書き下ろしたものを加えて、英語をめぐる人物史の観点からまとめられたものである。著者の経歴もあつてか、北海道に関わりのある人物の比重が高くなっている。また、本書では喜安雅太郎^{きやすんたろう}『湖畔通信・鶴沼通信』への参照が多いが、『英語青年』の編集を40年近く務めた喜安の博覧強記に対する著者の信頼の篤さがうかがわれる。

本書に取り上げられた人物は、ラム姉弟を除いて、わが国の英語教育史上にさまざまな形で足跡を残している。中には札幌農学校の一期生でありながらこれまであまり知られることのなかった荒川重

秀を掘り起こすなど、これを多としながらも、さらなる調査にまちたい人物も含まれている。

本書掉尾を飾る第8章「日本の英語教育史をたどる」は、わが国の英語教育史の時期区分を試みている。歴史研究においてはこの時代区分と年表作成とがその研究者の史観を最もよく表すと言われるが、著者は、①英語教育の流れの変化は量的変化と質的变化の2つの要素に還元することができる、②時代の区分については、新しい動きが全体に滲透し、英語教育の流れが変わったことを見極めて期を画さねばならない、③わが国の英語教育史は中等教育と高等教育とを分けて記述されねばならない、という3つの点を踏まえつつ、明治の初年から1990年頃までを、中等教育は3期に、高等教育は4期に分けて、それぞれの時期の特徴を分析している。本章は独立に読むこともできるので、まず本章を読んでから他の章を読むと、日本英語教育史の知識がなくとも、それぞれの時代を背景として、いかなる人物がどのように活躍したかが捉えやすくなるであろう。

行文は滑らかで読みやすい。英語教育に携わる人たちがばかりでなく、英語教師をめざす若者にもぜひ一読を勧めたい。

なお、著者には旧著として『札幌農学校と英語教育—英学史研究の視点から』（思文閣出版、1992）があり、あわせて薦めたい。また、この新旧両著を読むうえで日本英語教育史の通史が理解できればその読後感もいっそう深いものになろう。伊村元道『日本の英語教育200年』（大修館書店、2003）もぜひ読みたい。

（たけなか たつり・香川大学教授）

英語学習のメカニズム

第二言語習得研究にもとづく
効果的な勉強法

廣森友人 著

A5判・196頁
本体1,600円＋税

[評者]

小金丸倫隆



学習者の視点に立てば、英語学習が変わる！ 授業が変わる！

「先生、英語を話せるようになりたいけど、どう勉強したら良いでしょうか。」

英語教師であれば、一度は生徒からされる質問ではないか。本書には、そのような質問に答えるために必要な根拠やヒントがぎっしり詰まっている。

英語教師を対象とした第二言語習得に関する専門書は数多く出版されているが、本書の大きな特徴は、英語指導者や研究者ではなく、あくまでも「英語学習者」の視点に立って書かれているということである。

具体的には、まず第1章と第2章で、第二言語習得研究の概要や習得のプロセスについて示された後に、第3章と第4章では、英語学習のインプット活動とアウトプット活動の「質」を高めるためにはどうすればよいか、について紹介されている。活動の紹介では、具体的な教材を取り上げながら、なぜそれらが効果的であるのかについて、裏づけとなる理論をふまえながら説明されている。また、ありがたいことに、各章末には具体的な教材ソース（ウェブサイトや書籍など）が数多く紹介されており、明日からの英語学習にすぐ

に役立てることができる。

そして、学習者重視という本書の特徴を際立たせているのが、第5章から第7章までの後半部分である。これらの章では、「学習動機・学習方略・学習スタイル」といった英語学習を行う学習者自身に関わる要因に焦点が当てられている。一般的に良いとされている英語学習法も万人にとって良いとは限らない。それは、学習者ごとに学習スタイルや学習動機などに多様な違いがあるためであるが、本書ではそのような学習者ごとの違いをふまえ、個々に応じた英語学習を行うための理論やヒントが、わかりやすく示されている。これらの学習動機や学習方略といった、英語学習を行う学習者自身に関わる要因は、英語の教授法や活動など「教える側の要因」と対比して、一般に「学習者要因」と呼ばれる。第二言語習得の分野でも、近年注目を集めつつある分野であるが、著者である廣森氏は、まさにこの「学習者要因」の分野で、国内外の第一線で活躍している研究者であるので、本書には最新の研究成果が凝縮されていると言えるだろう。

また各章末には「4技能で一番重要な技能とは？」「英語学習と性別は関係があるのか？」といった、英語学習に関する素朴な疑問について扱ったコラムも掲載されており、いずれも非常に興味深い。

効果的な英語学習方法を理解するためだけでなく、生徒一人ひとりに応じた英語指導を行うためにも是非一読しておきたい、英語教師必携の一冊である。

（こがねまる みちたか・

神奈川県立光陵高等学校教諭）

大修館書店の本

◆コーパスを極めるための指南書

英語コーパスを活用した言語研究

ハーンズ・リンドクヴィスト=著
渡辺秀樹, 大森文字, 加野まきみ, 小塚良孝=訳
(A5判・250頁・本体2,800円+税)

◆よりよくイスラームを理解するために最適の書

イスラームを読む——クルアーンと生きるムスリムたち

小杉 泰=著
(四六判・258頁・本体予価2,100円+税)

◆なぜ最低評価の公立校が最優秀校になれたのか

イギリス教育の未来を拓く小学校 ——「限界なき学びの創造」プロジェクト

マンディ・スワン, アリソン・ピーコック, スーザン・ハート, メリー・ジェーン・ドラモンド=著
新井浅浩, 藤森裕治, 藤森千尋=訳
(A5判・264頁・本体2,700円+税)

[訂正] 本誌第56号(2015年11月)の「大修館書店 新刊 PICK UP」にて、『英語4技能評価の理論と実践』の編著者名に誤りがありました。正しくは「望月昭彦」です。また、19頁の英単語ナンクロパズルの初級のマスに誤りがありました。右下の「8」「9」は、正しくは「6」「8」です。お詫びして訂正いたします。 ———編集部



お知らせ



小社英語教科書についてのご質問、感想などを小誌編集部宛にお寄せください。「G.C.D.教科書 Question Box」で随時ご紹介・ご回答してまいります。

また、小社教科書を使った授業の紹介などのご投稿(郵送のみ)をお待ちしております。(採否のご連絡は致しておりません。また、原稿はお返ししません。)

なお、小社ホームページには小社教科書の内容をご案内しているサイトがございます。ここでは、英語の先生方に役立つ様々な情報も提供しております。

<http://www.taishukan.co.jp/gcdroom/>

営業便り

▶花曇りの季節を迎えておりますが、先生方におかれましてはお忙しい日々をお過ごしのことと存じます。平成28年度用教材につきましては小社の教科書、辞典、副教材を全国で多数ご採択いただきまして、あらためてお礼申し上げます。▶入社して14年目で仙台営業所に配属となってから7年目になりました。当初は東北の厳しい寒さに思わず身を固くする日々が続いていましたが、1年、2年と過ぎていくうちに徐々に気候にも慣れて、今では短い秋が終わり「冬の到来を告げる風」をひそかに待ちわびていたりもします。▶また、東北に赴任して「出会った」方々には本当によくしていただき、教えていただいたことから多くを学び充実した毎日を送れていることに心から感謝しております。▶これからの採択の時期には小社営業担当が来年度用教科書についてご案内に参ります。生徒さんが人生も心も豊かになれる教科書と「出会える」ことを目標に、魅力ある教材を揃えております。先生方のご期待に添えますよう全力で頑張りますので何卒宜しくお願い申し上げます。(仙台営業所 池谷陸樹)



編集後記

▶昨夏の異動に伴い、英語の教科書の担当に就いてから、あっという間に半年以上が経ちました。初めての教科書担当ということで、仕事内容から進行から、覚えなければならぬことばかりのなか、まるで新入社員に戻ったかのような気もちで日々の業務に勤しんでいます。▶来春から、G (Genius) C (Compass) D (Departure) のいずれもIの改訂版が使用開始になります。改訂作業では、本特集で各編集委員の先生方にご紹介いただいたように、それぞれのシリーズのよいところを活かしながら、現場の先生方のご意見などを参考に、より使いやすく、学びやすい教科書になるよう、工夫をこらしました。▶作り手に回って接してみると、教科書というものがいかに細かなところまでとことん突き詰めて作られているか、ということがわかります。そうしたところが、少しでも先生方や生徒のみなさんの親しみやすさにつながってくれることを願っております。(麦)

Genius・Compass・Departure 英語通信

第57号
2016年4月1日発行
(年2回発行)

編集人：©「G.C.D.英語通信」編集部
発行人：鈴木一行
発行所：株式会社 大修館書店
〒113-8541 東京都文京区湯島2-1-1
電話(03)3868-2293(編集部) / (03)3868-2651(販売部)
【出版情報URL】 <http://www.taishukan.co.jp> 【振替】00190-7-40504
印刷・製本：文唱堂印刷株式会社

◎本誌のコピー、スキャン、デジタル化等の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内での利用であっても著作権法上認められておりません。